

令和6年度 学校経営計画・学校評価				☑4月4日提出	☑10月3日提出	☑3月14日提出	学校番号	46	清水	高等学校	課程	全					
高知県の教育の基本理念	(1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3)多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人			基本方針	①予測困難な社会を生き抜く力を身につけるための教育の推進 ②多様な背景・特性・事情等を踏まえた包摂的な教育・支援の推進 ③生涯にわたって学ぶことができる環境づくりと活動・取組の推進 ④各種施策を総合的・計画的に推進するために必要な基礎的・基盤的な環境・体制等の整備												
	スクール・ポリシー	【アドミッション・ポリシー】(入学受入れ方針) ①「未来のジョン万次郎」を目指すとする生徒。 ②地域や社会について関心を持ち、その仕組みや今後の在り方について考えようとする生徒。 ③国際社会や国際交流に関心を持ち、世界の人々と交流し、自分を高めたいと考えている生徒。 ④地域の自然、社会、人々について、積極的に理解を深め、より良くしようという意欲を持った生徒。			【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針) ①大学や地域の関係機関等と連携し、地域における自然科学、社会科学人文科学の各分野について、学際的な視点で探究する学び。 ②教科及び総合的な探究の時間等で、地域や社会の課題を自らで見つけ出し、広い視野で分析・考察し、解決方法等を提案するような学び。 ③海外の高校生等と英語で対話や議論ができるような力を身に付ける学び。 ④ICTを活用することで、視野を広げ、論理的に思考する探究的な学び。												
		【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力) ①予測不能な未来を生き抜くために必要とされる知識及び技能。 ②地域や世界における現代的な諸課題について、多角的・多面的に考察し課題を設定し、解決に向けて取り組むことができる能力。 ③自身がかけがえのない国際社会の一員であることを自覚し、将来の地域や世界の発展に貢献する態度。 ④ジョン万次郎の考え方、生き方をコンパスとし、生涯にわたって力強く学び続けようとする力。															
学校関係者評価																	
【学力の向上】 評価 【 B 】																	
基礎力診断テストにおける1・2年生のD層が減少している。生徒一人一人の進路希望に対応した支援の結果、進路決定状況は就職・進学ともに一定の評価ができる。今後も継続して、学習の意味や、自己の将来像を描きながら、学力向上についての対策を計画的に行うことを期待する。																	
【社会性の育成】 評価 【 B 】																	
総合的な探究の時間等で地域をフィールドとした探究活動が行なわれ、学校と地域が一体となった取組となっている。生徒の主体的な取組となるよう、地域連携コーディネーターと連携しながら年間計画を作成し、これまで以上に地域と学校が一体となった取組となることを期待する。																	
【チーム学校】 評価 【 B 】																	
教職員に土佐清水市全体の教育力を向上させようとする雰囲気を感じられる。未来共創科や高台移転を期に、中高で連携し系統的な教育活動を展開することを期待する。さらに地元中学生の生徒数の確保、地域みらい留学等での学校の魅力発信について、学校と地域が一体となった取組が必要である。																	
(評価)A: 目標を十分に達成 B: 目標をほぼ達成 C: やや不十分 D: 不十分																	
		育成を目指す資質・能力【P】		現状と目標(評価指標)		具体的な取組内容【D】		中間評価【C】		中間評価後の取組内容【P・D】		年度末評価【C】		見直しのポイント【A】			
重点項目	学力的向上	★確かな学力 ○基礎的・基本的・発展的な知識及び技能 ○思考力、判断力、表現力等 ○学びに向かう力、人間性等 ★将来を見通した学び ○将来にわたって学び続ける意欲(学習習慣を含む)		○C層以上の生徒の増加 2年生2回目の学力定着把握検査におけるC層以上の生徒の割合を高知県目標数値以上にする R5 1年1回→ R5 1年2回 11.5ポイント増加 R5 1年2回→ R6 2年1回 14.3ポイント増加 ○授業外学習時間の増加 高知県オリジナルアンケート 問2「授業外学習(家庭学習等)をほとんどしない」の回答30%以下 R5 1年2回36.4% 2年2回45.8% ○将来のための勉強をしている生徒の増加 問14「将来の可能性を広げるために勉強を頑張っている」の肯定的回答90%以上 R5 1年2回81.0% 2年2回75.0% ○学習することはおもしろいから勉強している生徒の増加 問13「学習することがおもしろいから勉強している」の肯定的回答50%以上 R5 1年2回19.0% 2年2回27.1%		・「思考力・判断力・表現力」の育成を目指した授業改善を推進する。(学力向上委員会) ・効果的な「振り返り」の方法を研究する。(学力向上委員会) ・学際的な視点での授業づくりを推進する。 ・タブレットを効果的に活用した工夫を行う。 ・「すらら」を活用した補習を実施する。		C	○2年生第1回学力定着把握検査 R5 1年2回→R6 2年1回 14.3ポイント増加 ○第1回高知県オリジナルアンケート問13 1年 33.4% 2年 28.6% 3年 39.6% ○1・2年生のD3層の生徒対象に6月から「すらら」を活用した放課後補習を実施した。 ・義務教育段階の定着は向上しているが、高校の内容の定着が不十分な生徒への対応が必要である。		B	○2年生第2回学力定着把握検査 R6 2年1回→R6 2年2回 14.2ポイント増加 高知県目標数値を達成できた。 ○第2回高知県オリジナルアンケート 問2 1年 61.9% 2年 47.6% 3年 35.4% 問13 1年 31.0% 2年 33.3% 3年 43.7% 問14 1年 66.7% 2年 81.0% 3年 73.0% ・基礎学力については、全体的に改善傾向にある。 特に2年生はD3層が0であった。 ・「すらら」を活用した補習や個別支援が効果的であった。 ・主体的に学習に向かう態度の育成が課題である。		B	・教科会や学力向上委員会を中心とした組織的な学力向上対策の実施 【評価指標】 ・学力定着把握検査 2年生2回目の高知県目標数値を達成する。 ・高知県オリジナルアンケート 問2 各学年回答30%以下 問13 肯定的回答50%以上 問14 肯定的回答90%以上		
	社会性の育成	★豊かな心 ○自己存在感、自己有用感、コミュニケーション力、自己決定力等 ★多様性・包摂性 ○キャリアデザイン力(やりぬく力) ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む)		○貢献的態度の育成 高知県オリジナルアンケート 問21「高校入学以降、地域や社会をよくするために地域貢献活動やボランティア活動などを行ったことがある」の肯定的回答70%以上 ○キャリアデザイン力の向上 高知県オリジナルアンケート 問30「将来の夢や目標をもっている」の肯定的回答90%以上		・キャリア・パスポートの改善(目標設定と達成に向けた具体的な計画の策定)。 ・総合的な探究の時間における年間計画の改善。 ・地域イベント等へ積極的な参加を促す。		B	第1回高知県オリジナルアンケート ○問21 1年16.6% 2年42.9% 3年66.6% ○問30 1年78.5% 2年71.4% 3年77.1% ・総合的な探究の時間において、地域と連携した活動ができていく。		B	第2回高知県オリジナルアンケート ○問21 1年23.8% 2年47.6% 3年70.9% ○問30 1年76.2% 2年71.4% 3年91.7% ・総合的な探究の時間やボランティア活動を通して地域連携を推進することができた。 ・やりぬく力、コミュニケーション力に課題をかかえる生徒も少なくない。		B	・総合企画部を軸としたカリキュラム開発の継続及び運用の工夫 【評価指標】 ・高知県オリジナルアンケート 問21 肯定:60%以上 問30 肯定:80%以上		
取組項目	地域協働学習	【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携		○エージェンシーの育成 高知県オリジナルアンケート 問19「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」の肯定的回答60%以上 (R5.47.6%) ○社会貢献へ意欲向上 高知県オリジナルアンケート 問21「高校入学以降、地域や社会をよくするために地域貢献活動やボランティア活動などを行ったことがある。」の肯定的回答70%以上		・総合的な探究の時間においてSDGsの視点を踏まえ、地域課題について取り組む。 ・「地域・社会の現状と改善(仮)」をテーマとした探究発表会を実施する。		B	第1回高知県オリジナルアンケート ○問19 1年66.6% 2年38.1% 3年66.7% ○問21 1年16.6% 2年42.9% 3年66.6% ・SDGsの視点で地域の課題について考察し探究につなげる学習が展開できている。地元企業との連携した商品開発や観光パンフレット作成等に繋げることができた。		B	第2回高知県オリジナルアンケート ○問19 1年69.1% 2年52.4% 3年73.0% ○問21 1年23.8% 2年47.6% 3年70.9% ・1・2年生では、探究成果発表に向けて活動を振り返り発表する機会を設定できた。 ・地域連携コーディネーターと協働した学習や土佐清水市ジオパーク推進協議会と連携した授業づくりを継続していくことが課題である。		B	・総合企画部を軸としたカリキュラム開発の継続及び運用の工夫 ・地域コーディネーターとの関連 【評価指標】 ・高知県オリジナルアンケート 問19、問21 肯定:70%以上		
	教科横断的教育	【取組のねらい】 ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付けれる力の育成		○各教科において言語活動や情報活用能力を育成する場面を意識的に設定した回数の増加 ○課題解決に関わる意欲の向上 高知県オリジナルアンケート 問22「高校入学以降の学習によって環境や社会の問題に対する意識や行動に変化があったと思う」の肯定的回答50%以上		・各教科において、探究的な学びを推進し、自己の考えを適切に表現する機会を設ける。 ・タブレットを効果的に活用した授業改善を行う。 ・生徒が自身の思考を深めるための発問を工夫する。		A	第1回高知県オリジナルアンケート ○問22 1年61.9% 2年76.2% 3年77.1% ・総合的な探究の時間で地域の課題について学習し思考を深める活動に繋げることができている。 ・各教科においてタブレットの活用した授業が展開され主体的な学習活動につながっている		A	第2回高知県オリジナルアンケート ○問22 1年64.3% 2年71.4% 3年83.4% ・教科間の連携やタブレットを活用した授業改善を継続することができ、アンケート回答で目標を達成できた。 ・3年生では、3年間のまとめとして探究論文集を作成し取組成果を保護者や地域に発信することができた。		A	・学力向上委員会を中心とした継続した取組み強化 ・校内研修の実施 ・高知県オリジナルアンケート 問22 肯定:80%以上		
		取組のねらい【P】		現状と目標(評価指標)		具体的な取組内容【D】		中間評価【C】		中間評価後の取組内容【P・D】		年度末評価【C】		見直しのポイント【A】			
チーム学校	学校の振興	★学校の魅力化 ○中高一貫教育の推進 ○地元中学校からの生徒数確保 ○地域・大学等と連携した探究活動		○中高の連携回数の増加 ○地元中学校からの入学率向上 地元中学校からの進学割合70%以上(R6年度中学校3年生57名)		・探究及び英語教育について小中高の担当者会を行い、系統的なカリキュラムについて協議、策定する。 ・部活動における合同練習の実施。 ・地域連携コーディネーター及び国際教育コーディネーターと連携した探究活動の実践。		B	・年度当初に中高合同職員会議を実施、管理職においては月1回の定例会議を実施している。 ・英語科は小中高合同授業づくり講座を実施。 ・複数の部活動で中高合同練習を実施。 ・高知大学、竜串ビジターセンタ、環境省等との連携した探究学習が実施できた。 ・地元保幼小中学校保護者に向けた未来共創科の説明会を開催できた。		B	・中高合同で地域行事に参加する。(清水まちの魚市) ・新時代に対応した高等学校改革推進事業については、総合企画部を軸としワーキンググループで進捗管理をしていく。		B	・中高合同管理職会では、それぞれの課題の共有や校舎移転後の取組についての協議をすすめることができた。 ・学際のカリキュラム開発は、総合企画部を軸としたワーキンググループで次年度の計画案を作成し課題を共有することができている。 ・地域みらい留学に関する受入について行政や地域と継続した協議ができていく。		
	不祥事防止	★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応		○法令遵守の意識喚起 校内研修の実施回数 3回 不祥事防止委員会の実施回数 3回		・報告・連絡・相談の励行。 ・校外研修会の情報共有。 ・不祥事防止チェックリストの活用。			B	・校内研修会及び不祥事防止委員会を2回実施(4月・6月) ・個人情報を含む文書等の取扱いに関するマニュアル(ガイドライン)の作成した。 ・グループウェアを活用して定期的な意識喚起を実施した。		B	・校内研修会を実施する。 ・定期的に意識喚起を継続していく。 ・報告連絡相談がスムーズにできるよう環境を整備していく。		B	・「学校の安心・安全を守る」研修会(コーディネーター、中学校職員、PTA、同窓会、商工会議所の参加あり)を実施、校内不祥事防止宣言を作成し撲滅に向けた啓発を行えた。 ・年間を通して啓発を継続することは、自分事として捉える良い機会となっている。	
	働き方改革	★長時間勤務の解消 ○風通しのよい職場環境 ○やりがいを持って校務に取り組める体制の構築		○長時間勤務者の減少 ○ICTを活用した業務改善		・夏季休業期間に閉庁日を設定する。 ・部活動複数顧問制(一部)を実施する。 ・グループウェアの連絡機能を活用し、職員朝礼を廃止する。			C	・閉庁期間の設定(8/13～8/16) ・1学期の45時間以上の長時間勤務者が昨年より増加している。 ・全ての部活動で複数顧問制で活動しているが専門の教員に負担が偏っている。 ・職員朝礼を廃止し、SH前の準備時間を確保できている。		C	・指導・支援に多くの時間を要する生徒が多く、支援情報会等で状況を確認しながら個人で抱え込まないようにしていく。 ・報告連絡相談がスムーズにできるよう環境を整備していく。		C	・多様な生徒の支援を継続しながら、部活動指導、未来共創科のカリキュラム開発など業務が重複し、長時間勤務の解消ができていない。 ・職員朝礼を廃止したことは、始業後の時間確保にはつながっているが、日程の変更確認や伝達事項の周知が課題である。。	